

科目ナンバリング									
授業科目名 <英訳>	イタリア語II A I2102 Italian IIA				担当者所属 職名・氏名	非常勤講師 霜田 洋祐			
群	外国語科目群			分野(分類)				使用言語	日本語
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習(外国語)(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2024・前期		曜時限	火5		配当学年	2回生以上	対象学生	全学向
<b>【授業の概要・目的】</b>									
<p>比較的平易なイタリア語の文章の読解。          イタリア語文法を一通り学んだ学生(イタリア語I I101の授業[2017年度は河合・片山両講師]を受けた者、あるいはそれと同レベルの学習を行なった者)を対象とする。イタリア語文法を学び終えていない者は、必ず自分で文法を学ぶことを履修の条件とする。          辞書を頼りに、自力でイタリア語の文章を理解できるようになることを目指しており、必要に応じて文法事項を確認しながら、イタリア語を読み解くスキルを習得していく。</p>									
<b>【到達目標】</b>									
辞書を正しく引いて、文法を頼りに、やさしいレベルのものであれば、自力でイタリア語の文章を理解できるようになることを目指す。									
<b>【授業計画と内容】</b>									
<p>様々なジャンルのイタリア語テキストを編んだ講読用教科書を読みながら、イタリア語を読解するための技術を学ぶ。          各テキストには星1つから3つまでの難易度の評価がついているので、試しに星1つのテキストを読み、徐々にレベルを上げていく。前から順には読まない。</p> <p>第1回：授業の内容の説明をした後、最初のテキスト(「女性と家族の絆 Donna e famiglia」)の読解をはじめめる。          第2回～第14回：1-2回の授業で1つのテキストを読み終わる予定で進む。適宜、確認の小テストを行う(予告あり)。テキストの選択・順番は、参加者の様子を見ながら判断し、指示する。          第15回：期末試験/学習到達度の評価          第16回：フィードバック(答案を返却して講評を行い、夏休みに読んで力をさらにつけるのに役立つテキストの紹介などを行う)。</p>									
<b>【履修要件】</b>									
「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。									
<b>【成績評価の方法・観点】</b>									
<p>授業への参加を重要視し、成績は、平常点が60点と定期試験(筆記)が40点の配分で評価する。平常点は、予習(テキストの読解や文法解釈)の取り組みや発音などをチェックするので、必ず予習をし、できれば教科書付録の朗読音源を聞いてくること。          成績評価基準は、授業中にさらに詳しく説明する。</p>									
<b>【教科書】</b>									
東京大学イタリア語教材編集委員会編 『PIAZZA [Text+CD]』(東京大学出版会) ISBN:4130821172									
----- イタリア語II A I2102(2)へ続く -----									

## イタリア語II A I2102(2)

### [参考書等]

(参考書)

『伊和中辞典』(小学館)

### [授業外学修(予習・復習)等]

辞書で語彙を調べ、指定された箇所を読んでくること。その場ですぐに和訳できればよく、きれいな「訳文」を用意する必要はない(用意しないほうがよい)。

どうしてもわからない文もあると思うが、その場合は意味不明な訳をつけて投げ出すのではなく、1年次の教科書・プリント等も参照しながら、何がどのようにわからないのか言語化(主語が不明、動詞が見つからない、など)できるように考えてくるようにしてほしい。

### [その他(オフィスアワー等)]

オフィスアワーは特に決まった時間に設けないが、授業内容に関する質問は授業中に受けるので、遠慮なく積極的に質問してほしい。また、学習方法等の質問は授業後に教室で受けるので、これも遠慮なく申し出てほしい。